

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
サービス体験デザイン論/デザイン論	西尾 淳	2
インタビュー法	中村 聡宏	4
ビジネスパーソンシップ論/スポーツマンシップ論	中村 聡宏	6
プロジェクトマネジメント/プロジェクトマネジメント入門	西尾 淳	8
ビジネスリテラシー/インベスター・リレーションズ実践(IR)	滝澤 淳浩	10
サービス創造入門	吉田 優治	12
サービス創造入門2/サービス産業論/企業セミナー1	石井 泰幸	14
サービス人的資源管理論/人的資源管理論	今井 重男	16
観光政策サービス論	山田 耕生	18
空間サービス論	滝澤 淳浩	20
経営学入門/経営学入門1	池田 武俊	22
経営学入門/経営学入門1	池田 武俊	24
マーケティング入門/マーケティング入門1	安藤 和代	26
マーケティング入門/マーケティング入門1	仁平 京子	28
アカウンティング入門/財務会計入門1	坂井 恵	30
経営情報論	石井 泰幸	32
マーケティング戦略論2	仁平 京子	34
広告論	宮澤 薫	36
マーケティングコミュニケーション論/マーケティング戦略論	松本 大吾	38
企業財務論/企業財務	清水 喜久	40
企業価値評価	清水 喜久	42
内部監査論/内部統制入門	坂井 恵	44
情報システム	仲野 友樹	46

科目名	サービス体験デザイン論/デザイン論		
担当教員名	西尾 淳		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング	SI-PRO1004	学年	11
講義名	サービス体験デザイン論		
先修科目	-		
この授業を通じて身につけるCUC 6つの能力要素> (主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能	◎	普遍的な知識・技能	相互理解・コミュニケーション力 23
チャレンジ精神・実践力		主体性・責任感	社会規範意識・誠実さ 25
CUC6つの能力要素詳細	http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html		
科目概要			
<p>サービス創造とは、生活者にとっての幸せな体験をデザインすることである。そう考える時、サービス創造学部の学生は体験をデザインするデザイナーとなるべき人材と言えるだろう。そのような人材に成長する上では「デザイン思考」を理解し実践することが重要である。この講義では、①対象をよく観察する ②課題の本質を見極める ③情報を収集・分析する ④アイデアを拡散する ⑤アイデアを収斂する ⑥プロトタイプを作る ⑦検証する、というデザイン・プロセスの理解と実践を通して、サービス創造にとっての「デザイン思考」の重要性・有用性を学ぶ。</p>			
科目の到達目標			
課題解決の方法としてのデザイン思考を理解し、「プロジェクト実践」において活用できること。イノベーションを起こす可能性を自分自身に見出すこと。			
授業の特徴			
アクティブ・ラーニングの要素			
グループワーク		プレゼンテーション	実習、実技、フィールドワーク 45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習			ディスカッション・ディベート 47
その他			
授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	53
第1回	ガイダンス デザイン論概要	デザインに関連する書籍を1冊読み込み、概要と感想を1000文字～2000文字で文章化しプリントした上で、第1回授業に持参する。	55
第2回	デザイン思考とは何か	サービス創造とデザイン思考の関係性について考察し、1000文字程度の文章として第3回授業までに提出する。	57
第3回	対象を観察する 演習課題「店舗の観察」	課題テーマに沿ってフィールドワークした上でレポートを作成し、第4回授業までに提出する。	59
第4回	「店舗の観察」課題講評	店舗観察フィールドワークの講評を受けての感想・考察を1000文字程度で文章化し、第5回授業までに提出する。	61
第5回	課題を発見する 演習課題「言葉でデッサンする」	課題テーマに沿ってフィールドワークした上でレポートを作成し、第6回授業までに提出する。	63
第6回	「言葉でデッサンする」課題講評	言葉でのデッサン講評を受けての感想・考察を、1000文字程度で文章化し、第6回授業までに提出する。	65

第7回	情報を収集・分析する 演習課題「情報収集」	課題テーマに沿って情報収集し、第8回授業に持参する。	67
第8回	「情報収集」課題講評	情報収集の講評を受けての感想・考察を1000文字程度で文章化し、第8回授業までに提出する。	69
第9回	アイデアを発想する① 演習課題「アイデアの拡散」	課題テーマに沿ってアイデアを多数発想し、第10回授業に持参する。	71
第10回	アイデアを発想する② 演習課題「アイデアの収斂」	ベストアイデアを選択しブラッシュアップした上で第11回授業までに提出する	73
第11回	「アイデアの拡散」「アイデアの収斂」課題講評	アイデア発想の講評を受けての感想・考察を、1000文字程度で文章化し、第11回授業までに提出する。	75
第12回	形を作る① 演習課題「アイデアのプロトタイプ化」	アイデアのプロトタイプ化の宿題に取り組み、成果を第13回授業に持参する。	77
第13回	形を作る② 演習課題「プロトタイプの修正・改良」	プロトタイプをブラッシュアップし、第14回授業までに提出する。	79
第14回	「アイデアのプロトタイプ化」「プロトタイプの修正・改良」課題講評	プロトタイプ講評を受けての感想・考察を1000～2000文字で文章化し、第15回授業までに提出する。	81
第15回	サービス体験デザイン論まとめ サービス創造とデザイン思考	サービス体験デザイン論を履修しての感想を1000文字程度で文章化し提出する。	83
成績評価の方法・基準と課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
授業参加度50%、授業内レポート・宿題50% 授業内レポートへのフィードバックは後日講義内で優秀レポートを中心に行う。			
欠席が多い場合早い段階で厳しく対処する。			
テキスト・教科書 特になし。			
参考文献 this is service design thinking: Marc Stickdorn / Jakob Schneider (2013年・BNN新社) Design Thinking デザイン思考と経営戦略: 奥出直人 (2012年・NTT出版)			

科目名	インタビュー法		
担当教員名	中村 聡宏		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング	SI-PRO1005	学年	1年 単位 11
講義名			
先修科目			
この授業を通じて身につける<CUC 6つの能力要素> (主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能	○	普遍的な知識・技能	○ 相互理解・コミュニケーション力 23
チャレンジ精神・実践力		主体性・責任感	社会規範意識・誠実さ 25
CUC6つの能力要素詳細			
科目概要			
<p>人から話を聞き出す「インタビュー法」を主テーマに、ビジネスに必要とされるコミュニケーション能力（情報収集・情報発信・文書作成能力・傾聴力等）を高めることを目的とするワークショップ形式の講義。なぜ、ビジネスの現場でコミュニケーション能力が求められるのかを理解し、他人から情報を「引き出す」こと、またその情報が「伝わる」ことを実現するための方法論を学ぶ。「コミュニケーション能力」全般を高める思考法、キャリアに対する向き合い方についても考える。</p>			
科目の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションに対する意識を高めるとともに、物事を広い視野で考え、その内容を他者に伝えるための自分なりのコミュニケーションスタイルを創造する。 ・将来を見据えて「働くこと」・「働き方」をイメージしながら、キャリア・人生に対して考える習慣を身につける。 			
授業の特徴			
アクティブ・ラーニングの要素			
グループワーク	○	プレゼンテーション	○ 実習、実技、フィールドワーク 45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習			ディスカッション・ディベート 47
その他			
授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	
第1回	ガイダンス -インタビュー法で学ぶべきこと-	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	53 55
第2回	「学ぶ」ことの意義を考える	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	57
第3回	ビジネスマンの心得	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	59
第4回	目的を把握する -かならず「なぜ」からはじめよう-	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	61
第5回	コミュニケーションの意義	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	63
第6回	ポジティブのススメ -伝わる言葉の選び方-	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	65

第7回	書くチカラと聴くチカラ -傾聴力を高めよう-	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	67
第8回	情報は「ブーメラン」 -情報発信と情報収集の重要性-	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	69
第9回	組織におけるコミュニケーション	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	71
第10回	文書作成はデザインワーク -伝えたい要素を吟味しよう-	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	73
第11回	企画書を書いてみよう	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	75
第12回	プレゼンテーションの極意	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	77
第13回	グループワーク「私ってどんな人？」 -自己紹介&他己紹介をしてみよう-	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、それらを参考にしながらプレゼンテーションに向けて準備する。	79
第14回	プレゼンテーション「あなたはどんな人」 -自己紹介&他己紹介をしてみよう-	当該授業における自チームおよび他チームによるプレゼンテーションを通して学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。	81
第15回	まとめ・総括	当該授業を通して学び、議論した点や、プレゼンに関して受けた講評なども含めて振り返り、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、今後の学びにいかせるようその内容を整理する。	83
成績評価の方法・基準と課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
授業への参加度 50%、課題・文書作成・提出物 50% 課題・文書作成・提出物については、次回以降の授業内で講評を行うとともに、個別に添削して返却する。			
本講は、ワークショップ形式で進めるため、講義に参加するメンバーの一員として、「グループをつくる」・「他の学生と議論する」・「作業をする」といったそれぞれの局面で、他者を尊重し、スムーズな講義進行に協力すること。			
テキスト・教科書			
参考文献 必要に応じて、講義内で適宜紹介する。			

科目名	ビジネスパーソニッ論/スポーツマンニッ論		
担当教員名	中村 聡宏		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング	SI-PRO1008	学年	1年
		単位	11
講義名	スポーツマンニッ論		
先修科目	-		
この授業を通じて身につける<CUC 6つの能力要素> (主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能	普遍的な知識・技能	相互理解・コミュニケーション力	23
チャレンジ精神・実践力	主体性・責任感	社会規範意識・誠実さ	25
CUC6つの能力要素詳細	http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html		

科目概要
POCKET OXFORD DICTIONARY (1969年版)によれば、「Sportsman」=「Good Fellow」とあるように、スポーツマンとは「他者を尊重し、勇気ある意志で挑戦し、全力を尽くすことのできる覚悟を持つ人」である。スポーツが現在のような形式を整えた歴史的背景を知るとともに、社会の構成メンバーとして「より誠実に、よりカッコよく生きる」こととはどういうことかを考える。

科目の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・「スポーツマンニッ=ビジネスパーソニッ」の理解を通じて、「尊重する能力」・「自己客観力」・「論理的思考力」・「実践力」の習得をめざす。 ・「スポーツが持つ社会的な意味」を理解し、「カッコよく生きる」・「よき市民となる」ことが大学で学ぶこととどのように結び付いているのかを考える。 ・「スポーツマンニッ・ビジネスパーソニッとは何か?」という質問に対して、適切に答えられるようになり、スポーツマンニッ (=ビジネスパーソニッ) を実践する(しようと努力できる)人になる。

授業の特徴

アクティブ・ラーニングの要素			
グループワーク	プレゼンテーション	実習、実技、フィールドワーク	45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		ディスカッション・ディベート	47
その他			

授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	
第1回	ガイダンス -スポーツマンニッを理解する意味- スポーツマンニッ=ビジネスパーソニッととらえ、本講義で学ぶ意味について考える。	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	53 55
第2回	スポーツとはなにか そもそも、スポーツとはなにか。スポーツをする意義と本質的な構造について学ぶ。	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	57
第3回	スポーツマンってどんな人? スポーツマンとはどういう人をさすのか、歴史的な背景からその意味を考える。	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	59
第4回	「尊重 (Respect)」の精神 他者への理解、多様性の寛容など、尊重することの重要性、そしてそれが普段の生活にもたらす意義について学ぶ。	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	61
第5回	スポーツマンに求められる「勇気」 勇気を持ってチャレンジすることの重要性、そしてそれが普段の生活にもたらす意義について学ぶ。	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	63
第6回	スポーツマンニッを学ぶ「覚悟」 喜びを得るために必要な困難・苦難を受け入れ全力を尽くす覚悟の重要性、そしてそれが普段の生活にもたらす意義について学ぶ。	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	65

第7回	なぜ、当事者意識が必要なのか すべての責任を自らが負うという覚悟、当事者意識の重要性、そしてそれが普段の生活にもたらす意義について学ぶ。	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	67
第8回	なぜ、ルールを尊重するのか ルールはなぜあるのか。ルールの存在意義とその機能、その向き合い方、そしてそれが普段の生活にもたらす意義について学ぶ。	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	69
第9回	スポーツと体育の違い 混同して使われがちな「スポーツ」と「体育」について、歴史的背景からその本質的な差異を学ぶ。そしてそれが普段の生活にもたらす意義について学ぶ。	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	71
第10回	事例で考えるスポーツマンシップ スポーツにおける実際の事例に基づいて、さまざまな立場からの視座を議論し、スポーツマンシップ的見地から思考する。	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	73
第11回	コミュニケーション力と実践力 スポーツマンシップやビジネスパーソンシップを理解するだけでなく、コミュニケーションにもたらす影響、行動・実践することの大切さを学ぶ。	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	75
第12回	スポーツマンシップで強くなるか 綺麗事ともいえるスポーツマンシップやビジネスパーソンシップを実践すると、チームは強くなるのか、また、ビジネスでの成果は出せるのか。その点について議論するとともに、それが普段の生活にもたらす意義について学ぶ。	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	77
第13回	自らを客観視した先に 自己客観化の重要性、自分と他者との関係について考え、それが普段の生活にもたらす意義について学ぶ。	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	79
第14回	スポーツマンたちのコトバ スポーツやビジネスの世界における先人たちの言葉から、スポーツマンシップ、ビジネスパーソンシップに重要な要素を学ぶ。	当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。 また、提示された課題については指定日時までに提出する。	81
第15回	総括 社会課題とスポーツマンシップ さまざまな社会課題の問題は「人」に関する問題である。人にまつわる問題解決方法は「教育」である。スポーツマンシップ、ビジネスパーソンシップを学ぶことが、社会課題にどのような影響をもたらすかについて考える。	これまでの講義内容を総括し、事前に整理しておくこと。 また、当該授業で学び、議論した点について、重要だと感じた事項、他者の多様な考え方、新たな気づきなどを抽出し、その内容等を整理する。	83
成績評価の方法・基準と課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 授業参加度・貢献度 50%、授業内レポート・課題・プレゼンテーション 50% 授業内レポート・課題・プレゼンテーションについては次回以降の授業内で講評を行う。			
本講では、「スポーツマンシップ=ビジネスパーソンシップ」について徹底的に考える。ただし、スポーツマンシップはスポーツに限定した話ではなく、人が生きる上での倫理の問題でもある。したがって、スポーツへの興味・関心の有無や、スポーツの好き嫌いについては、全く不問である。「考えることが好きな人」や本講を通じて「考えることにチャレンジする意欲のある人」の受講を期待する。また、スポーツビジネスBBプロジェクトおよびスポーツビジネスFBブテキスト・教科書			
参考文献 必要に応じて、講義内で適宜紹介する。			

科目名	プロジェクトマネジメント/プロジェクトマネジメント入門		
担当教員名	西尾 淳		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング	SI-PRO2010	学年	1 1
講義名	プロジェクトマネジメント		
先修科目	-		
この授業を通じて身につける<CUC 6つの能力要素> (主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能	◎	普遍的な知識・技能	相互理解・コミュニケーション力 23
チャレンジ精神・実践力		主体性・責任感	社会規範意識・誠実さ 25
CUC6つの能力要素詳細	http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html		
科目概要			
<p>プロジェクトとは、特定の目的を達成するための有期の活動である。この講義では、プロジェクトをより良く推進する上で必要なマネジメントとは何かを、体系的に学習することを目的とする。目標の設定、目標達成するための活動計画、タスク・スケジュール・コスト管理など、プロジェクトに必要な要素を整理・学習する。この講義は後に履修する「プロジェクト実践」で、実際にプロジェクトを立ち上げ、計画・実行をおこなう時の基本となる。また、卒業後、ビジネス界で各種のプロジェクト活動を遂行するに際しての有力な武器となる。</p>			
科目の到達目標			
<p>ビジネス界におけるプロジェクトの意味を理解し、プロジェクトの目標設定、計画、運営、管理などの基本を習得する。また、学部における「プロジェクト実践」を有効な活動とするための基礎力を身につける。</p>			
授業の特徴			
<p>アクティブ・ラーニングの要素</p>			
グループワーク		プレゼンテーション	実習、実技、フィールドワーク 45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習			ディスカッション・ディベート 47
その他			
授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	53
第1回	ガイダンス プロジェクトマネジメントの概念	事前学習として、社会において「～プロジェクト」と名の付いた事例に関心を持った案件について、書籍・新聞・インターネット等で調べ、概要を800字～1200字で文章化しプリントしたものを、第1回の授業に持参する。	55
第2回	プロジェクトマネジメントの基礎(1) プロジェクトが始まる誘因	第2回授業で配布する資料を読み返し復習する。またそこに設定した質問に対し自身の考えを記入し第3回授業に持参する。	57
第3回	プロジェクトマネジメントの基礎(2) プロジェクト・マネジメント10のステップ	第3回授業で配布する資料を読み返し復習する。またそこに設定した質問に対し自身の考えを記入し第4回授業に持参する。	59
第4回	プロジェクトマネジメントの基礎(3) 役割を分担する・所要期間を見積もる	第4回授業で配布する資料を読み返し復習する。またそこに設定した質問に対し自身の考えを記入し第5回授業に持参する。	61
第5回	プロジェクトマネジメントの基礎(4) ネットワーク図を作る	第5回授業で配布する資料を読み返し復習する。またそこに設定した質問に対し自身の考えを記入し第6回授業に持参する。	63
第6回	プロジェクトマネジメントの基礎(5) スケジュールを作る	第6回授業で配布する資料を読み返し復習する。またそこに設定した質問に対し自身の考えを記入し第7回授業に持参する。	65

第7回	プロジェクトマネジメントの基礎（6）予算を作る・リスクに備える	第7回授業で配布する資料を読み返し復習する。またそこに設定した質問に対し自身の考えを記入し第8回授業に持参する。	67
第8回	プロジェクトマネジメントの基礎（7）進捗をコントロールする・事後の振り返りをする	第8回授業で配布する資料を読み返し復習する。またそこに設定した質問に対し自身の考えを記入し第9回授業に持参する。	69
第9回	演習（1）プロジェクトの目標を設定する	プロジェクト目標設定の宿題に取り組み、第10回授業に持参する。	71
第10回	演習（2）作業を分解し、ワークパッケージを洗い出す	ワークパッケージ作成の宿題に取り組み、第11回授業に持参する。	73
第11回	演習（3）役割分担し、所要時間を見積もる	役割分担、所要時間見積りの宿題に取り組み、第12回授業に持参する。	75
第12回	演習（4）ネットワーク図を作る	ネットワーク図作成の宿題に取り組み、第13回授業に持参する。	77
第13回	演習（5）スケジュールを作り、負荷を調整する	スケジュール作成の宿題に取り組み、第14回授業に持参する。	79
第14回	演習（6）予算を作る・リスクに備える	予算作成の宿題に取り組み、第15回授業に持参する。	81
第15回	プロジェクトマネジメントとリーダーシップ	第15回授業で観る動画から、プロジェクトマネジメントとリーダーシップの関係性についてレポートを作成し提出する。	83
成績評価の方法・基準と課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
授業参加度（50%）、授業内課題（30%）、授業貢献度（20%） 授業内課題については後日講義内にて、優秀な解答を中心にフィードバックする。			
授業の進捗にあわせて資料を配布する。配布した資料はファイリングし、毎回の授業に持参すること。			
テキスト・教科書			
参考文献			
プロジェクトマネジメント理論編（第2版）・実践編（第2版） 監修：中嶋秀隆 著：中憲治（2013年 総合法令出版）			

科目名	ビジネスリテラシー/インペスター・リレーションズ実践 (IR)		
担当教員名	滝澤 淳浩		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング		学年	2年 単位 11
講義名			
先修科目			
この授業を通じて身につけるCUC 6つの能力要素> (主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能	○	普遍的な知識・技能	相互理解・コミュニケーション力 23
チャレンジ精神・実践力		主体性・責任感	◎ 社会規範意識・誠実さ 25
CUC6つの能力要素詳細			
科目概要			
本講義では、本学部でサービスを学び社会に出た際に、即戦力として活躍出来るサービス人材育成の一つとして、ビジネスパーソン・ビジネスリーダーとして必要な「ビジネス基本行動」を習得する。企業についての基礎知識(会社概要、経営理念、組織、会社法等)、決算書の見方、業界研究及び企業分析、ビジネスマナー、社内外コミュニケーションや人脈構築手法、広報活動全般等を学び、各個人の能力を上げる。			
科目の到達目標			
本学部でサービスの基礎をしっかりと学び、インターンシップでの実践教育、就職活動を経て、社会に出た時に即戦力として立派に職場で活躍できる知識と行動力を身に付ける。			
授業の特徴			
アクティブ・ラーニングの要素			
グループワーク		プレゼンテーション	実習、実技、フィールドワーク 45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習			ディスカッション・ディベート 47
その他			
授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	53
第1回	ガイダンス	新聞やテレビ、ネット等のニュースを見て知識の習得と情報収集を行う。 次週の講義の予習をしっかりと行う。	55
第2回	企業について(会社概要、経営理念)	新聞やテレビ、ネット等のニュースを見て知識の習得と情報収集を行う。 次週の講義の予習をしっかりと行う。	57
第3回	情報収集について(新聞の読み方、会社四季報・業界地図の読み方)	新聞やテレビ、ネット等のニュースを見て知識の習得と情報収集を行う。今週の講義の復習と次週の講義の予習をしっかりと行う。	59
第4回	決算書の見方①(損益計算書)	新聞やテレビ、ネット等のニュースを見て知識の習得と情報収集を行う。今週の講義の復習と次週の講義の予習をしっかりと行う。	61
第5回	決算書の見方(貸借対照表)	新聞やテレビ、ネット等のニュースを見て知識の習得と情報収集を行う。今週の講義の復習と次週の講義の予習をしっかりと行う。	63
第6回	決算書の見方③(キャッシュフロー計算書ほか)	新聞やテレビ、ネット等のニュースを見て知識の習得と情報収集を行う。今週の講義の復習と次週の講義の予習をしっかりと行う。	65

第7回	業界研究①(製造業-素材、電機・機械、生活関連)(IT・通信・インターネット)(金融)(エネルギー)(交通・運輸)	新聞やテレビ、ネット等のニュースを見て知識の習得と情報収集を行う。今週の講義の復習と次週の講義の予習をしっかりと行う。	67
第8回	業界研究②(建設・不動産・住宅)(流通・小売)(サービス・レジャー・アミューズメント)(マスコミ)(商社・教育・人材・コンサルティング)	新聞やテレビ、ネット等のニュースを見て知識の習得と情報収集を行う。今週の講義の復習と次週の講義の予習をしっかりと行う。	69
第9回	企業研究①(職種)(企業組織)	新聞やテレビ、ネット等のニュースを見て知識の習得と情報収集を行う。今週の講義の復習と次週の講義の予習をしっかりと行う。	71
第10回	企業研究②(企業分析)	新聞やテレビ、ネット等のニュースを見て知識の習得と情報収集を行う。今週の講義の復習と次週の講義の予習をしっかりと行う。	73
第11回	ビジネスマナー①(服装、挨拶、会議ほか)	新聞やテレビ、ネット等のニュースを見て知識の習得と情報収集を行う。今週の講義の復習と次週の講義の予習をしっかりと行う。	75
第12回	ビジネスマナー②(電話、メール、手紙、クレーム対応等)	新聞やテレビ、ネット等のニュースを見て知識の習得と情報収集を行う。今週の講義の復習と次週の講義の予習をしっかりと行う。	77
第13回	交渉と人脈形成について	新聞やテレビ、ネット等のニュースを見て知識の習得と情報収集を行う。今週の講義の復習と次週の講義の予習をしっかりと行う。	79
第14回	広報活動とCSRとSDGsについて	新聞やテレビ、ネット等のニュースを見て知識の習得と情報収集を行う。今週の講義の復習と次週の講義の予習をしっかりと行う。	81
第15回	まとめ	新聞やテレビ、ネット等のニュースを見て知識の習得と情報収集を行う。今週の講義の復習と最終講義では当講義のまとめを行い、講義内でレポート作成提出を行う。各自準備をして受講。	83
成績評価の方法・基準と課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業貢献度・参加度50%。 ・授業内レポート50%。 上記を総合的に勘案して評価する。			
講義の順序や内容等が変更となる場合がある。 ゲスト講師への感謝と敬意を持って授業に挑むこと。 ①始業時間の厳守。			
テキスト・教科書			
特になし。			
参考文献			
<ul style="list-style-type: none"> ・講義内で適宜紹介する。 			

科目名	サービス創造入門		
担当教員名	吉田 優治		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング	SI-SER1012	学年	1年 単位 11
講義名	サービス創造入門		
先修科目	なし		
この授業を通じて身につける<CUC 6つの能力要素> (主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能	◎	普遍的な知識・技能	相互理解・コミュニケーション力 23
チャレンジ精神・実践力	○	主体性・責任感	社会規範意識・誠実さ 25
CUC6つの能力要素詳細	http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html		
科目概要			
サービス創造 (Service Innovation) を学ぶための入門必修科目である。「サービス」とは何であり、「創造 (イノベーション)」とは何であり、「サービス創造」とは何であるのかを初学者にわかりやすく講義する。			
科目の到達目標			
サービス創造についての基本的な概念を理解するとともに、サービス創造するにあたっての実践的な諸課題を認識してほしい。			
授業の特徴			
アクティブ・ラーニングの要素			
グループワーク		プレゼンテーション	実習、実技、フィールドワーク 45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習			ディスカッション・ディベート 47
その他			
授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	53
第1回	サービスを学ぶ意味を確認する(1) : NHKスペシャル「ジャパン ブランド」を手掛かりとして	事後学習として、NHKスペシャルにおけるサービス創造がどう描かれていたのかについてのレポート提出を求める。	55
第2回	サービスを学ぶ意味を確認する(2) : カンプリア宮殿を手掛かりとして	事後学習として、カンプリア宮殿においてサービス創造がどう描かれていたのかについてのレポート提出を求める。	57
第3回	サービスとは何かを問う(1) : 経済学はサービスをどのように捉えられてきたのか。	サービスを第3次産業として捉えることが適当であるか否かについて次回までに考えてほしい。	59
第4回	サービスとは何かを問う(2) : 経営学やマーケティングはサービスをどのように捉えられてきたのか。	事後学習として、サービスを経済学の視点から理解するのと、マネジメントやマーケティングの視点から理解するのではどこが異なるのかについて考え、次回にレポートとして提出する。	61
第5回	サービスとは何かを問う(3) : サービスの定義を検討する。	事後学習として、本講義で定義するサービス創造の視点は、これからのビジネスや社会においてどのようなことを議論するのに有効であるかについてのレポートをまとめ、次回提出する。	63
第6回	サービスの源泉について考える : 行為、テクノロジー、状況、空間、制度など	事後学習として、サービスの多様な源泉についての理解から、サービスを議論するにあたりどのような可能性がひろがるのかについて考えてほしい。	65

第7回	サービスの提供と受容：個人・企業(組織)・社会とのサービスやり取り	事後学習として、個人、企業、社会に対するサービスの具体例について考え、それらについてレポートにまとめ次回提出する。	67
第8回	サービスの受容無関心圏について：当たり前と考えられるサービスについて	事前学習のために、経営管理論における権威・権限の受容説についての論文を配布するので繰り返し読んで事前に理解してほしい。 サービス受容論の理解が容易になると思われる。	69
第9回	サービスの共創について：サービス共創プロセス	指定したサービス共創に関する論文を読んで、サービス共創の理解を深めることが求められる。	71
第10回	サービス生産性の議論を整理する：政府の成長戦略の視点から	事後学習として、指定する生産性に関する複数の論文を読んでサービス生産性に関する理解を深める。	73
第11回	サービス生産性とサービス品質の関係について	生産性を向上させることと、品質を向上させる具体的なサービス事例をレポートにまとめて次回提出する。	75
第12回	サービス創造(Service Innovation)とは何か(1)：なぜサービスには創造(Innovation)が必要なのか？	事後学習として、イノベーションについての指定する複数の論文を読んでサービスイノベーション(サービス創造)の理解を深めてもらいたい。	77
第13回	サービス創造(Service Innovation)とは何か(2)：誰がサービス創造するのか？	事前学習として、サービス創造の具体事例をプレゼンテーションしてもらおう。	79
第14回	まとめに代えて：サービス・イノベーターA講演(1)：公式サポーター企業の創業経営者	事前事後学習として、サービスイノベーターAの関わるビジネスについて調べて、何がサービスイノベーションであり、なぜサービスイノベーションを実現できたのかをレポートにまとめて提出する。	81
第15回	まとめに代えて：サービス・イノベーターB講演(2)：公式サポーター企業のサービスイノベーター	事前事後学習として、サービスイノベーターBの関わるビジネスについて調べて、何がサービスイノベーションであり、なぜサービスイノベーションを実現できたのかをレポートにまとめて提出する。	83
成績評価の方法・基準と課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 レポート40%、発言30%、事後事前学習30%			
サービス創造関連科目の入門科目であり必修科目であることを認識して受講すること。覚えることより、考えることを大切にしてほしい。			
テキスト・教科書 教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。			
参考文献 必要に応じて指示する。			

科目名	サービス創造入門2/サービス産業論/企業セミナー1		
担当教員名	石井 泰幸		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング	SI-SER2004	学年	1年 単位 11
講義名	サービス産業論/企業セミナー1		
先修科目			
この授業を通じて身につける<CUC 6つの能力要素> (主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能	◎	普遍的な知識・技能	○ 相互理解・コミュニケーション力 23
チャレンジ精神・実践力		主体性・責任感	社会規範意識・誠実さ 25
CUC6つの能力要素詳細	http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html		
科目概要			
<p>わが国の第3次産業であるサービス産業は、70%を超え、産業界に大きな影響を及ぼしている。実際、その就労者数も全体の3分の2以上を占め、その意味でサービス産業に注目することが時代の趨勢といえる。しかし、そのサービスは各業界によって多様であり、一概にサービス産業を定義することは難しい。</p> <p>そこで、本講義ではサービス産業を各業界に沿って事例分析し、サービス産業の実態を受講生と共に学んでいくことを目指す。さらに、そのサービス産業がそれぞれ持つ課題についても皆と共に考え、その解決の可能性も考えていきたい。</p>			
科目の到達目標			
講義内容でも述べた通り、サービス産業は一概に説明できない。従って、本講義ではまずサービス産業について概観し、その上でサービス産業とは何かを受講生に理解してもらうことを目指す。			
授業の特徴			
アクティブ・ラーニングの要素			
グループワーク		プレゼンテーション	実習、実技、フィールドワーク 45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習			ディスカッション・ディベート 47
その他	サービス産業論は、講義内容とこれまでの受講生の状況から、上記のアクティブ・ラーニングとは意を異にする。したがって		
授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	53
第1回	ガイダンス	事前学修として初回の授業の準備として、現在のサービスに関する新聞記事をまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容を整理しておく。	55
第2回	産業区分から見たサービス産業	事前学修として、授業で取り上げる我が国の産業区分からみたサービスを事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容について整理しておく。	57
第3回	サービス産業の歴史1 (1960年代～1980年代)	事前学修として、授業で取り上げる1960年代～1980年代の我が国のサービスの歴史とその背景について事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容を整理しておく。	59
第4回	サービス産業の歴史2 (1990年代～現在)	事前学修として、授業で取り上げる1990年代～現在までの我が国のサービスの歴史とその背景について事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容を整理しておく。	61
第5回	わが国のサービスと世界との差異について	事前学修として、授業で取り上げる我が国のサービスと世界のサービスとの差異について事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容を整理しておく。	63
第6回	サービスの類型について	事前学修として、授業で取り上げる我が国のサービスの類型について事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容を整理しておく。	65

第7回	サービスから見たマネジメント	事前学修として、授業で取り上げる我が国のマネジメントとサービスの関係について事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容を整理しておく。	67
第8回	小結	事前学修として、これまでの授業で取り上げた内容を事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容について整理しておく。	69
第9回	事例研究1（外食産業）	事前学修として、我が国の外食産業のサービスの事例を事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容について整理しておく。	71
第10回	事例研究2（ホテル業界）	事前学修として、我が国のホテル業界のサービスの事例を事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容について整理しておく。	73
第11回	事例研究3（金融業界）	事前学修として、我が国の金融業界のサービスの事例を事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容について整理しておく。	75
第12回	事例研究4（IT業界）	事前学修として、我が国のIT業界のサービスの事例を事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容について整理しておく。	77
第13回	サービス産業の持つ課題1（人的問題）	事前学修として、授業で取り上げるサービス産業の人的問題である課題を事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容について整理しておく。	79
第14回	サービス産業の持つ課題2（サービスの考え方）	事前学修として、授業で取り上げるサービス産業のもつサービスの考え方が生み出す様々な課題を事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容について整理しておく。	81
第15回	まとめ	事前学修として、これまでの授業で取り上げたサービス産業を事前まとめに400字程度に整理しておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容及びこれまでの講義を確認しておく。	83
成績評価の方法・基準と課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
授業時試験70%、授業時レポート10%、授業への貢献度20% なお、授業時レポートなどの課題については、逐次フィードバックをおこなう。			
授業時試験及び授業時レポート内容を重視する。			
テキスト・教科書			
今村昌宏『サービスの経営学』東洋経済新報社、2010年			
参考文献			
講義時に連絡する。			

科目名	サービス人的資源管理論/人的資源管理論		
担当教員名	今井 重男		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング	SI-SER1014	学年	11
講義名	サービス人的資源管理論/人的資源管理論		
先修科目			
この授業を通じて身につける<CUC 6つの能力要素> (主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能	◎	普遍的な知識・技能	○
チャレンジ精神・実践力		主体性・責任感	
CUC6つの能力要素詳細	http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html		
科目概要			
<p>サービス企業が存続するには、リピート顧客を増やし、維持するために、顧客を満足させ続けることが不可欠である。顧客を満足させるにはサービスを提供する従業員を満足させる必要があり、さらに従業員満足は採用・能力開発・賃金体系といった当該企業の内部サービス品質に依存するとされる。したがって、この内部サービス品質は、一般に当該企業の人事管理システムの優劣に関わるものである。</p> <p>人事管理に関わる知見は、古くから経営学の応用分野である労務管理論、人事管理論そして昨今では人的資源管理論としての研究をおして蓄積されている。物も金も情報も人が介在しなければ、資源としての機能を発揮し得ないから、人は最重要の経営資源であるとされる。人的資源管理は、そうした人的資源の有効活用をその目的とする。人的資源管理は、例えば、採用、能力開発、人事考課、賞金、異動・昇進等、様々な人事機能によって構成されている。通常の人的資源管理論の講義においては、それらの機能を個々に取り上げ、その特徴と問題を詳論する場合も多々あるが、ここではそのようなアプローチの方法はとらない。</p> <p>本講義においては、今日の厳しい競争環境下の基、人的資源管理も戦略的視点が強く求められていることから、実際の企業の具体的な事例を織りませながら、まずは個々の人事機能を統合する我が国の人事制度の歴史の変遷とその問題を中心に教授し、その後、個々の人事機能を各論として展開することにする。</p>			
科目の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人的資源管理に関する新聞記事やニュースを自分なりに解釈して読むことができる。 ・ 自身が就職を希望する企業のHPや入社案内のパンフレットに記載された当該企業の人事諸制度や諸施策に関心を示し、自分なりの問題意識をもって調べることができる。 			
授業の特徴			
アクティブ・ラーニングの要素			
グループワーク		プレゼンテーション	45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習			47
その他			
授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	53
第1回	ガイダンス	現在従事中のアルバイト内容レポート	55
第2回	人的資源管理の目的	アルバイト先における人的資源に関わる問題探索(1)	57
第3回	年功主義(日本型経営)	アルバイト先における人的資源に関わる問題探索(2)	59
第4回	年功主義から能力主義、成果主義	年功序列と成果主義のどちらを志向するのかレポート作成	61
第5回	人事諸制度①一括採用と通年採用、キャリア採用	通年採用を実施する企業例探索	63
第6回	人事諸制度②評価と昇給・昇格・賞金の関係(1) 評価を中心に	正規従業員と非正規従業員(アルバイトなど)の賃金額の違いの意味を考察する	65

第7回	人事諸制度③評価と昇給・昇格・賞金の関係 (2) 昇給・昇格・賞金を中心に	評価結果の重要性を、すなわち評価直後のみならず、後世まで様々な分野で影響する実例を理解する	67
第8回	人事諸制度④配置・異動・退職	引っ越しを伴う人事異動に関する考察	69
第9回	人事諸制度⑤教育訓練	自ら学ぶOff-JTに対するレポート作成	71
第10回	人事諸制度⑥福利厚生	サービスを創造する人材の人的資源に関する資料読み込み(1)	73
第11回	サービスを創造する人々の人的資源管理の特徴 (1) 裁量労働とホワイトカラーエグゼンプション	これまでに経験した (または聞いたことのある) ブラックバイトレポート	75
第12回	ブラック企業とブラックバイト	サービスを創造する人材の人的資源に関する資料読み込み(2)	77
第13回	サービスを創造する人々の人的資源管理の特徴 (2) 出来高制、年俸制	採用活動における疑問の事前整理	79
第14回	採用現場レポート	ゲストスピーカーの講話レポート作成	81
第15回	キャリア形成: 自発的なキャリア形成とキャリア形成支援の取り組み	定期試験対策	83
成績評価の方法・基準と課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法 定期試験100%			
快適な授業環境を保つために、極力自由な雰囲気です授業を進めていくつもりだが、他人の迷惑になる行為 (授業中の私語、携帯の使用、ゴミの放置等) については厳禁とし、厳しく対処していくので留意すること。			
テキスト・教科書 特に使用しない。			
参考文献 適宜、授業中に紹介する。			

科目名	観光政策サービス論		
担当教員名	山田 耕生		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング	SI-SER2007	学年	2年 単位 11
講義名	特別講義（観光政策サービス論）		
先修科目	-		
この授業を通じて身につけるCUC 6つの能力要素（主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内）			
専門的な知識・技能	◎	普遍的な知識・技能	○ 相互理解・コミュニケーション力 23
チャレンジ精神・実践力		主体性・責任感	社会規範意識・誠実さ 25
CUC6つの能力要素詳細	http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html		
科目概要			
<p>観光が地域にもたらす経済的・社会的効果の大きさに注目して、日本では長らく地域政策の一環として観光事業が取り組まれてきた。21世紀に入り、政府が「観光立国」を明言すると、観光庁の創設、東京五輪の招致、“ビジット・ジャパン・キャンペーン”によるインバウンド、地方での観光活性化策など、観光政策が国策の中心の一つとなっている。</p> <p>本講義では、日本の観光政策・サービスの変遷および現状を開設するとともに、海外の観光政策・サービスの事例を紹介しながら、これからの日本の観光政策・サービスの展望を検討していく。</p>			
科目の到達目標			
観光政策・サービスによる影響、効果を理解したうえで、現在あるいは将来の日本における観光政策・サービスについて主体的に展望できる能力を身につけることが本講義の到達目標である。			
授業の特徴			
アクティブ・ラーニングの要素			
グループワーク		プレゼンテーション	実習、実技、フィールドワーク 45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習			ディスカッション・ディベート 47
その他			
授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	
第1回	オリエンテーション/観光政策の基本的事項の理解	次回授業のテーマおよび内容について、まとめを行う。	55
第2回	日本の観光政策の歴史1（明治期から昭和期・東京五輪まで）	今回授業のテーマおよび内容について、まとめを行う。	57
第3回	日本の観光政策の歴史2（大阪万博からバブル経済期、平成期まで）	今回授業のテーマおよび内容について、まとめを行う。	59
第4回	統計からみる観光の現状（国内観光、インバウンド）	今回授業のテーマおよび内容について、まとめを行う。	61
第5回	現在の観光政策1（観光立国推進基本法）	今回授業のテーマおよび内容について、まとめを行う。	63
第6回	現在の観光政策2（MICE）	今回授業のテーマおよび内容について、まとめを行う。	65

第7回	現在の観光政策3（インバウンド）	今回授業のテーマおよび内容について、まとめを行う。	67
第8回	現在の観光政策4（農泊、古民家の活用）	今回授業のテーマおよび内容について、まとめを行う。	69
第9回	現在の観光政策5（スポーツツーリズム）	今回授業のテーマおよび内容について、まとめを行う。	71
第10回	現在の観光政策6（航空、鉄道）	今回授業のテーマおよび内容について、まとめを行う。	73
第11回	外国の観光政策（欧米諸国の観光政策）	今回授業のテーマおよび内容について、まとめを行う。	75
第12回	地方における観光政策1（北海道、東北）	今回授業のテーマおよび内容について、まとめを行う。	77
第13回	地方における観光政策2（九州、沖縄）	今回授業のテーマおよび内容について、まとめを行う。	79
第14回	観光政策・サービスの将来展望（2020東京五輪に向けて）	これまでの授業内容について、まとめを行う。	81
第15回	授業時試験・まとめ	試験内容を振り返る	83

成績評価の方法・基準と課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時試験（50%）、レポート・リアクションペーパー（50%）を総合的に勘案し判断する。リアクションペーパーに関しては、コメントを記載し、実施翌週以降に返却する。

観光・レジャー業界への就職を希望する学生は積極的に履修してほしい。

テキスト・教科書

使用しない。

参考文献

寺前 秀一 編著/日本観光研究学会 監修『観光学全集〈第9巻〉観光政策論』原書房、2009年

科目名	空間サービス論		
担当教員名	滝澤 淳浩		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング	SI-SER2015	学年	2年 単位 11
講義名			
先修科目			
この授業を通じて身につける<CUC 6つの能力要素> (主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能	◎	普遍的な知識・技能	相互理解・コミュニケーション力 23
チャレンジ精神・実践力		主体性・責任感	社会規範意識・誠実さ 25
CUC6つの能力要素詳細			
科目概要			
<p>私達が学ぶ「サービス」において、「空間」はとても重要項目である。サービスを受ける人たちが「居心地のいい空間」と感じる空間とはどのような空間なのか。また、各業界(ホテル、レストラン、大型商業施設、小売店、アミューズメント施設など)では「居心地のいい空間」づくりにどのような創意工夫がなされているのであろうか。場所、外観から内装、調度品、音楽、光り、室温湿度、香り、接客対応等、業界ごとにゲストから話しを聴き、現状と今後の新しい空間サービスを考える。</p>			
科目の到達目標			
世の中全体や各業界の空間サービスのトレンドを把握し、顧客が求めるこれからの新しい空間サービスをイメージできるようになること。			
授業の特徴			
アクティブ・ラーニングの要素			
グループワーク		プレゼンテーション	実習、実技、フィールドワーク 45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習			ディスカッション・ディベート 47
その他			
授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	
第1回	ガイダンス	新聞やテレビ、ネット等のニュースを見て情報収集をする。 ・次週の講義の業界や企業研究を行い、基礎知識を身に付けておく。	55
第2回	空間サービスとは	・前回と同様。 ・予習復習をしっかりとる。	57
第3回	空間スペースを上手く活用する	・前回と同様。 ・予習復習をしっかりとる。	59
第4回	アパレルショップの空間サービス	・前回と同様。 ・予習復習をしっかりとる。	61
第5回	カフェの空間サービス	・前回と同様。 ・予習復習をしっかりとる。	63
第6回	アミューズメント施設の空間サービス	・前回と同様。 ・予習復習をしっかりとる。	65

第7回	フードショップの空間サービス	・前回と同様。 ・予習復習をしっかりする。	67
第8回	公共施設の空間サービス	・前回と同様。 ・予習復習をしっかりする。	69
第9回	オフィスの空間サービス	・前回と同様。 ・予習復習をしっかりする。	71
第10回	レストランの空間サービス	・前回と同様。 ・予習復習をしっかりする。	73
第11回	コンビニエンスストアの空間サービス	・前回と同様。 ・予習復習をしっかりする。	75
第12回	ホテル・テーマパークの空間サービス	・前回と同様。 ・予習復習をしっかりする。	77
第13回	小売店舗の空間サービス	・前回と同様。 ・予習復習をしっかりする。	79
第14回	大型商業施設の空間サービス	・前回と同様。 ・予習復習をしっかりする。	81
第15回	まとめ	最終講義では、当講義のまとめとして、当講義で空間サービスについて学んだことを講義時間内でレポート作成提出を行う。その準備をして受講すること。	83
成績評価の方法・基準と課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業貢献度・参加度 50% ・授業内レポート 50% 上記を総合的に勘案して評価する。			
講義の順序や内容等が変更となる場合がある。 ゲスト講師への感謝と敬意を持って授業に挑むこと。 ①始業時間の厳守。			
テキスト・教科書			
使用しない。			
参考文献			
・講義内で適宜紹介する。			

科目名	経営学入門/経営学入門 1		
担当教員名	池田 武俊		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング	SI-MAN1001	学年	1年 単位 11
講義名	経営学入門/経営学入門 1		
先修科目	-		
この授業を通じて身につける<CUC 6つの能力要素> (主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能	◎	普遍的な知識・技能	相互理解・コミュニケーション力 23
チャレンジ精神・実践力		主体性・責任感	社会規範意識・誠実さ 25
CUC6つの能力要素詳細	http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html		
科目概要			
この講義は、経営学を学ぶための入門科目として位置づけられるものである。そのため、経営学を学ぶ意義、社会における企業の役割を考えることの重要性について理解していく。その後、経営学における基本的な課題や概念・理論を戦略、組織、管理という3つの領域から理解していく。これら領域の基礎的な理解が、今後の専門科目の学習の基礎として重要な役割を持っている。			
科目の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> 経営に関わる新聞記事やニュースに対して、経営学の視点から解釈して読むことができるようになる。 経営学の上級科目の学習に向け、経営学の視点から、企業や社会の問題を意識して考えることができるようになる。 			
授業の特徴			
アクティブ・ラーニングの要素			
グループワーク		プレゼンテーション	実習、実技、フィールドワーク 45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習			ディスカッション・ディベート 47
その他			
授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	53
第1回	ガイダンス 経営学を学ぶ意義	次回以降の講義に向け、本科目の講義内容、到達目標を理解する。実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	55
第2回	社会における企業の役割	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	57
第3回	企業と経営環境の関係	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	59
第4回	企業の成長と経営戦略	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	61
第5回	企業間の競争と経営戦略	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	63
第6回	経営戦略のまとめ	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	65

第7回	組織と組織構造の視点	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	67
第8回	組織構造の基本形	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	69
第9回	組織構造の応用形	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	71
第10回	企業における管理の必要性	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	73
第11回	人を管理するうえでの問題	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	75
第12回	モチベーション（外発的動機付け）	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	77
第13回	モチベーション（内発的動機付け）	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	79
第14回	「組織」と「管理」のまとめ	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	81
第15回	授業時試験・講評	すべての講義内容のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	83
成績評価の方法・基準と課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
中間試験や小レポートなど25%、授業時試験75%			
・ 中間試験については、その前週までの講義において、その実施日を告知する。			
・ 中間試験に関しては、いかなる理由があっても、追試験、再試験は実施しない。			
・ この科目が必修科目であることに特に留意すること。			
・ 快適な授業環境を保つために、極力自由な雰囲気での授業を進めていくつもりだが、他人の迷惑になる行為（授業中の私語、携帯の使用、ゴミの放置等）については厳禁とし、厳しく対処していくので留意すること。			
テキスト・教科書			
特に使用しない（必要に応じて講義中に資料を配布する）。			
参考文献			
適宜、講義中に紹介する。			

科目名	経営学入門/経営学入門 1		
担当教員名	池田 武俊		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング	SI-MAN1001	学年	1年 単位 11
講義名	経営学入門/経営学入門 1		
先修科目	-		
この授業を通じて身につける<CUC 6つの能力要素> (主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能	◎	普遍的な知識・技能	相互理解・コミュニケーション力 23
チャレンジ精神・実践力		主体性・責任感	社会規範意識・誠実さ 25
CUC6つの能力要素詳細	http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html		
科目概要			
この講義は、経営学を学ぶための入門科目として位置づけられるものである。そのため、経営学を学ぶ意義、社会における企業の役割を考えることの重要性について理解していく。その後、経営学における基本的な課題や概念・理論を戦略、組織、管理という3つの領域から理解していく。これら領域の基礎的な理解が、今後の専門科目の学習の基礎として重要な役割を持っている。			
科目の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> 経営に関わる新聞記事やニュースに対して、経営学の視点から解釈して読むことができるようになる。 経営学の上級科目の学習に向け、経営学の視点から、企業や社会の問題を意識して考えることができるようになる。 			
授業の特徴			
アクティブ・ラーニングの要素			
グループワーク		プレゼンテーション	実習、実技、フィールドワーク 45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習			ディスカッション・ディベート 47
その他			
授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	53
第1回	ガイダンス 経営学を学ぶ意義	次回以降の講義に向け、本科目の講義内容、到達目標を理解する。実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	55
第2回	社会における企業の役割	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	57
第3回	企業と経営環境の関係	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	59
第4回	企業の成長と経営戦略	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	61
第5回	企業間の競争と経営戦略	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	63
第6回	経営戦略のまとめ	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	65

第7回	組織と組織構造の視点	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	67
第8回	組織構造の基本形	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	69
第9回	組織構造の応用形	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	71
第10回	企業における管理の必要性	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	73
第11回	人を管理するうえでの問題	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	75
第12回	モチベーション（外発的動機付け）	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	77
第13回	モチベーション（内発的動機付け）	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	79
第14回	「組織」と「管理」のまとめ	講義のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	81
第15回	授業時試験・講評	すべての講義内容のポイントについて、自分なりに整理して理解を深める。そして、その知識を用いながら、実際の企業活動を理解していくために、企業、産業に関する日々のニュースを積極的に見ていく。	83
成績評価の方法・基準と課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
中間試験や小レポートなど25%、授業時試験75%			
・ 中間試験については、その前週までの講義において、その実施日を告知する。			
・ 中間試験に関しては、いかなる理由があっても、追試験、再試験は実施しない。			
・ この科目が必修科目であることに特に留意すること。			
・ 快適な授業環境を保つために、極力自由な雰囲気での授業を進めていくつもりだが、他人の迷惑になる行為（授業中の私語、携帯の使用、ゴミの放置等）については厳禁とし、厳しく対処していくので留意すること。			
テキスト・教科書			
特に使用しない（必要に応じて講義中に資料を配布する）。			
参考文献			
適宜、講義中に紹介する。			

科目名	マーケティング入門/マーケティング入門 1		
担当教員名	安藤 和代		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング	SI-COM1001	学年	1年 単位 11
講義名	マーケティング入門/マーケティング入門 1		
先修科目	-		
この授業を通じて身につける<CUC 6つの能力要素> (主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能	◎	普遍的な知識・技能	○ 相互理解・コミュニケーション力 23
チャレンジ精神・実践力	○	主体性・責任感	社会規範意識・誠実さ 25
CUC6つの能力要素詳細	http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html		
科目概要			
<p>技術が発達し類似した商品が溢れる現代では、どのようなマーケティングを展開するのかによって企業の業績は大きく変わる。本講では、マーケティングとは何かという問いから出発し、マーケティングの基本的な考え方について学習する。講義を進めるにあたっては、マーケティングの考え方が現実のビジネスにおいてどのように使われているか理解してもらうため、できるだけ事例を用いて説明する。本講の目的は、マーケティングの基礎を身に付け、身近で起こっているマーケティング現象に興味や問題意識を持ち、企業の考えに立って分析したり、消費者の行動を予測できるようになることである。</p>			
科目の到達目標			
マーケティングの基本的な知識を理解し、主要なフレームワークを用いて説明できる。			
授業の特徴			
アクティブ・ラーニングの要素			
グループワーク		プレゼンテーション	実習、実技、フィールドワーク 45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習			ディスカッション・ディベート 47
その他			
授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	53
第1回	ガイダンス・マーケティングとは何か	・シラバスに目を通し、講義内容や目的を理解する。 ・ヒット商品やサービスに関する新聞やネットニュースを読む。	55
第2回	マーケティング・コンセプト	・講義で学んだ内容の理解を深める。 ・講義で指示された課題について、情報を収集し、考えをまとめておく。	57
第3回	顧客ニーズ	・講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。 ・講義で指示された課題について、情報を収集し、考えをまとめておく。	59
第4回	顧客価値	・講義で学んだ内容の理解を深める。 ・講義で指示された課題について、情報を収集し、考えをまとめておく。	61
第5回	顧客満足	・身近な製品やサービスを用いて、講義で学んだキーワードを説明できるようにする。 ・指定された課題について、情報を収集し、考えをまとめておく。	63
第6回	STP(1)-セグメンテーション	・講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。 ・講義で指示された課題について、情報を収集し、考えをまとめておく。	65

第7回	STP（2）-ターゲティング	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。 ・講義で指示された課題について、情報を収集し、考えをまとめておく。 	67
第8回	STP（3）-ポジショニング	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。 ・講義で指示された課題について、情報を収集し、考えをまとめておく。 	69
第9回	マーケティングミックス	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。 ・具体的な製品やサービスのマーケティングミックスを分析してみる。 	71
第10回	製品戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で学んだ内容の理解を深める。 ・講義で指示された課題について、情報を収集し、考えをまとめておく。 	73
第11回	価格戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で学んだ内容の理解を深める。 ・講義で指示された課題について、情報を収集し、考えをまとめておく。 	75
第12回	流通戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で学んだ内容の理解を深める。 ・講義で指示された課題について、情報を収集し、考えをまとめておく。 	77
第13回	販売促進戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で学んだ内容の理解を深める。 ・講義で指示された課題について、情報を収集し、考えをまとめておく。 	79
第14回	授業内レポート	<ul style="list-style-type: none"> ・各講義で重要ポイントと示された内容を復習し、説明できるようにする。 	81
第15回	授業時試験と講評	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容全体を復習し、テストに備える。 ・テスト、講評を通して不明点を明確にし、内容を理解する。 	83
成績評価の方法・基準と課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
授業時試験：70% （第15回の授業時にテストを行い、理解度を確認するとともに講評を行う）			
授業内レポート：20%			
初回講義時に伝える。 シラバス中の「授業内レポート」は便宜的に第14回に設定しているが、第1回から第14回のいずれかに複数回行う。			
テキスト・教科書			
特に指定しない。授業時に配布する。			
参考文献			
和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦（2016）『マーケティング戦略（第5版）』有斐閣アルマ 上田隆穂、青木幸弘編（2008）『マーケティングを学ぶ<上>/<下>』中央経済社 久保田進彦、澁谷寛、須永努（2013）『はじめてのマーケティング』有斐閣			

科目名	マーケティング入門/マーケティング入門 1		
担当教員名	仁平 京子		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング	SI-COM1001	学年	1年 単位 11
講義名	マーケティング入門/マーケティング入門 1		
先修科目	-		
この授業を通じて身につけるCUC 6つの能力要素 (主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能	◎	普遍的な知識・技能	○ 相互理解・コミュニケーション力 23
チャレンジ精神・実践力	○	主体性・責任感	社会規範意識・誠実さ 25
CUC6つの能力要素詳細	http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html		
科目概要			
<p>技術が発達し類似した商品が溢れる現代では、どのようなマーケティングを展開するのかによって企業の業績は大きく変わる。本講では、マーケティングとは何かという問いから出発し、マーケティングの基本的な考え方について学習する。講義を進めるにあたっては、マーケティングの考え方が現実のビジネスにおいてどのように使われているか理解してもらうため、できるだけ事例を用いて説明する。本講の目的は、マーケティングの基礎を身に付け、身近で起こっているマーケティング現象に興味や問題意識を持ち、企業の考えに立って分析したり、消費者の行動を予測できるようになることである。</p>			
科目の到達目標			
マーケティングの基本的な知識を理解し、主要なフレームワークを用いて説明できる。			
授業の特徴			
アクティブ・ラーニングの要素			
グループワーク		プレゼンテーション	実習、実技、フィールドワーク 45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習			ディスカッション・ディベート 47
その他			
授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	53
第1回	ガイダンス・マーケティングとは何か	・シラバスに目を通し、講義内容や目的を理解する。 ・ヒット商品やサービスに関する新聞やネットニュースを読む。	55
第2回	マーケティング・コンセプト	・講義で学んだ内容の理解を深める。 ・講義で指示された課題について、情報を収集し、考えをまとめておく。	57
第3回	顧客ニーズ	・講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。 ・講義で指示された課題について、情報を収集し、考えをまとめておく。	59
第4回	顧客価値	・講義で学んだ内容の理解を深める。 ・講義で指示された課題について、情報を収集し、考えをまとめておく。	61
第5回	顧客満足	・身近な製品やサービスを用いて、講義で学んだキーワードを説明できるようにする。 ・指定された課題について、情報を収集し、考えをまとめておく。	63
第6回	STP (1) -セグメンテーション	・講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。 ・講義で指示された課題について、情報を収集し、考えをまとめておく。	65

第7回	STP（2）-ターゲティング	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。 ・講義で指示された課題について、情報を収集し、考えをまとめておく。 	67
第8回	STP（3）-ポジショニング	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。 ・講義で指示された課題について、情報を収集し、考えをまとめておく。 	69
第9回	マーケティングミックス	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。 ・具体的な製品やサービスのマーケティングミックスを分析してみる。 	71
第10回	製品戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で学んだ内容の理解を深める。 ・講義で指示された課題について、情報を収集し、考えをまとめておく。 	73
第11回	価格戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で学んだ内容の理解を深める。 ・講義で指示された課題について、情報を収集し、考えをまとめておく。 	75
第12回	流通戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で学んだ内容の理解を深める。 ・講義で指示された課題について、情報を収集し、考えをまとめておく。 	77
第13回	販売促進戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で学んだ内容の理解を深める。 ・講義で指示された課題について、情報を収集し、考えをまとめておく。 	79
第14回	授業内レポート	<ul style="list-style-type: none"> ・各講義で重要ポイントと示された内容を復習し、説明できるようにする。 	81
第15回	授業時試験と講評	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容全体を復習し、テストに備える。 ・テスト、講評を通して不明点を明確にし、内容を理解する。 	83
成績評価の方法・基準と課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
授業時試験：70% （第15回の授業時にテストを行い、理解度を確認するとともに講評を行う）			
授業内レポート：20%			
初回講義時に伝える。 シラバス中の「授業内レポート」は便宜的に第14回に設定しているが、第1回から第14回のいずれかに複数回行う。			
テキスト・教科書			
特に指定しない。授業時に配布する。			
参考文献			
和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦（2016）『マーケティング戦略（第5版）』有斐閣アルマ 上田隆穂、青木幸弘編（2008）『マーケティングを学ぶ＜上＞／＜下＞』中央経済社 久保田進彦、澁谷寛、須永努（2013）『はじめてのマーケティング』有斐閣			

科目名	アカウンティング入門/財務会計入門 1		
担当教員名	坂井 恵		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング	SI-ACC1001	学年	1 11
講義名	アカウンティング入門/財務会計入門 1		
先修科目	なし		
この授業を通じて身につける<CUC 6つの能力要素> (主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能	◎	普遍的な知識・技能	○ 相互理解・コミュニケーション力 23
チャレンジ精神・実践力		主体性・責任感	社会規範意識・誠実さ 25
CUC6つの能力要素詳細	http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html		

科目概要			
この講義では、将来、ビジネスの世界で活躍することを目指す大学生が、最低限理解しておくべき会計学の基礎を学習する。 春学期の授業では、財務や経理と呼ばれる仕事の一般的な内容、財務会計の意義、財務諸表の基本的な仕組み等、あらゆる組織の経営者や管理者に求められる知識や理論についての講義を行う。 なお、この講義では簿記技能の訓練は行わない。			

科目の到達目標			
財務会計の意義、財務諸表の基本的な仕組みや役割について、説明できるようになる。			

授業の特徴			

アクティブ・ラーニングの要素			
グループワーク		プレゼンテーション	実習、実技、フィールドワーク 45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習			ディスカッション・ディベート 47
その他			

授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	
第1回	イントロダクション	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。	53 55
第2回	株式会社制度と会社経営	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	57
第3回	財務の仕事	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	59
第4回	経理の仕事	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	61
第5回	財務諸表の基礎概念	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	63
第6回	財務諸表作成のルール(1)：基本原則/識別、測定	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	65

第7回	財務諸表作成のルール(2)：伝達のルール／財務諸表の体系	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	67
第8回	貸借対照表(1)：資産	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	69
第9回	貸借対照表(2)：負債と純資産	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	71
第10回	損益計算書	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	73
第11回	キャッシュ・フロー計算書	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	75
第12回	連結財務諸表	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	77
第13回	財務諸表の機能と構造	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	79
第14回	理解度の確認(授業時試験)	授業時試験の準備と見直し。	81
第15回	まとめ・解説	総復習と疑問点の洗い出し。	83
成績評価の方法・基準と課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
授業時試験の成績(100%)で評価する。 ただし、授業への参加状況も考慮する。 なお、授業時試験は通常の授業時間内に実施するため、定期試験期間中の試験は行わない。			
サがつくeラーニングに掲載するレジュメを、必ず授業に持参すること。			
テキスト・教科書			
毎回配布レジュメを用いて授業を進める。			
参考文献			
必要に応じて提示する。			

科目名	経営情報論		
担当教員名	石井 泰幸		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング	SI-MAN2002	学年	1 11
講義名	経営情報論		
先修科目	-		
この授業を通じて身につける<CUC 6つの能力要素> (主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能	◎	普遍的な知識・技能	相互理解・コミュニケーション力 23
チャレンジ精神・実践力		主体性・責任感	○ 社会規範意識・誠実さ 25
CUC6つの能力要素詳細	http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html		
科目概要			
<p>現在、コンピュータは企業経営に欠かせないツールになっている。しかも、わが国のコンピュータを結ぶネットワーク環境は、国際的にも高い水準であり、その意味で、企業がコンピュータを活用するには恵まれた環境といえる。</p> <p>しかし、わが国の多くの企業はコンピュータを経営強化のツールにするために、様々な問題を解決してきた経緯がある。従って、コンピュータを活用することは、単にコンピュータをうまく使いこなすことだけではなく、企業がコンピュータを必要とする局面をしっかりと把握し、自らの背丈にあったコンピュータ活用を行うべきなのである。</p> <p>以上より、本講義では、企業とコンピュータの関係を明らかにし、コンピュータ活用の可能性について学んでいく。</p>			
科目の到達目標			
本講義では、企業の情報化を歴史的に分析しながら、企業がコンピュータをどのように活用すると、コンピュータが経営強化のツールになるかを理解する。			
授業の特徴			
アクティブ・ラーニングの要素			
グループワーク		プレゼンテーション	実習、実技、フィールドワーク 45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		○	ディスカッション・ディベート 47
その他	経営情報論は、講義内容とこれまでの受講生の状況から、上記のアクティブ・ラーニングとは意を異にする。したがって、		
授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	53
第1回	ガイダンス	事前学修では初回の授業の準備として、現在の日本及び世界の情報に関する新聞記事をまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容を整理しておく。	55
第2回	経営学の進展と情報1 (テラー)	事前学修として、授業で取り上げるテラーについて事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容を整理しておく。	57
第3回	経営学の進展と情報2 (ファヨルとバーナード)	事前学修として、授業で取り上げるファヨルとバーナードを事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容を整理しておく。	59
第4回	経営学の進展と情報3 (サイモン)	事前学修として、授業で取り上げるサイモンを事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容を整理しておく。	61
第5回	わが国の経営情報の歴史	事前学修として、授業で取り上げる内容を事前に調べ、400字程度でまとめ、また、テラー、ファヨル、バーナード及びサイモンについても復習をしておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容を整理しておく。	63
第6回	MIS訪米使節団について	事前学修として、授業で取り上げるMIS訪米使節団について事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容を整理しておく。	65

第7回	オフィスオートメーション時代の経営情報	事前学修として、授業で取り上げるオフィスオートメーションを事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容を整理しておく。	67
第8回	経営情報を成功に導く経営計画	事前学修として、授業で取り上げる経営計画を事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容を整理しておく。	69
第9回	知識システムと人工知能	事前学修として、授業で取り上げる知識システムを事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容を整理しておく。	71
第10回	経営情報の発展段階	事前学修として、授業で取り上げる経営情報の発展段階を事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容を整理しておく。	73
第11回	意思決定支援システムと戦略的情報システム	事前学修として、授業で取り上げる2つのシステムを事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容を整理しておく。	75
第12回	競争優位と経営情報	事前学修として、授業で取り上げる競争優位を事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容を整理しておく。	77
第13回	IT活用と経営情報	事前学修として、授業で取り上げるIT活用の意義を事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容を整理しておく。	79
第14回	情報ネットワークの進展と企業	事前学修として、授業で取り上げる情報ネットワークを事前に調べ、400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだ内容を整理しておく。	81
第15回	まとめ	事前学修として、これまでの授業で取り上げた内容を事前に400字程度でまとめておく。 事後学修は、当該授業で学んだこれまでの講義内容を整理しておく。	83
成績評価の方法・基準と課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 授業時試験70%、授業時レポート10%、課題レポート20% なお、授業時レポート、課題レポートから、受講生とフィードバックをおこなう。			
授業時試験及び授業時レポート内容を重視する。			
テキスト・教科書 佐原寛二編『経営情報論ガイダンス』中央経済社、2006年			
参考文献 佐久間信夫『経営学原理』創成社、2014年			

科目名	マーケティング戦略論 2		
担当教員名	仁平 京子		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング	SI-COM2001	学年	2年 単位 11
講義名	マーケティング戦略論 2		
先修科目	マーケティング入門1、消費者行動論		
この授業を通じて身につける<CUC 6つの能力要素> (主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能	◎	普遍的な知識・技能	○ 相互理解・コミュニケーション力 23
チャレンジ精神・実践力		主体性・責任感	○ 社会規範意識・誠実さ 25
CUC6つの能力要素詳細	http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html		

科目概要			
<p>マーケティングの対象領域は、「製品戦略」から「事業戦略」、「企業戦略」へと拡大してきている。講義では、製品戦略単位のマーケティング・ミックスから、事業戦略単位のマーケティング、さらには、企業戦略単位のマーケティングへの展開についても検討する。</p> <p>そして、講義では、営利組織である企業の利益追求型のマーケティングの考え方だけでなく、「社会」との関係を重視するソーシャル・マーケティングやソサイエタル・マーケティング、CSVマーケティングの考え方も検討する。</p>			

科目の到達目標			
この講義では、以下の3つの力を身につけることを到達目標としている。			
①履修者が、製品戦略単位のマーケティング・ミックスから、事業戦略単位のマーケティング、さらには、企業戦略単位のマーケティングへの発展・拡大について理解する。			
②履修者が、ソーシャル・マーケティングやソサイエタル・マーケティング、CSVマーケティングなどの専門用語の名称と意味を理解して、専門用語を自ら表現できるようになる。			
③履修者が、自ら積極的にマーケティングの生きた教材である事例と接する中で、今まで気づけなかったことが「? (疑問)」になり、わかったという「! (確信)」に変わり、マーケティングの面白さとその深さを実感する。			

授業の特徴			

アクティブ・ラーニングの要素			
グループワーク	○	プレゼンテーション	○ 実習、実技、フィールドワーク 45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習			ディスカッション・ディベート 47
その他			

授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	
第1回	マーケティングの誕生：マーケティングの歴史／マーケティングの概念／マーケティング・コンセプト／マーケティング戦略の構造／マーケティングの4P (Product：製品、Price：価格、Place：流通チャネル、Promotion：プロモーション)	マーケティングの基礎と全体像を理解する。	55
第2回	マーケティング環境と経営戦略(1)：戦略的マーケティングの概念／3C (Customer：顧客、Competition：競争相手、Corporation：企業) 分析	マーケティング環境と経営戦略の特質をまとめる。	57
第3回	マーケティング環境と経営戦略(2)：競争優位を獲得するための環境分析と自社分析／SWOT (Strengths：強み、Weaknesses：弱み、Opportunities：機会、Threats：脅威) 分析	マーケティング環境と経営戦略の特質をまとめる。	59
第4回	事業機会の選択(1)：市場需要の創造と市場開拓・拡大／新事業探索のポイント／アンゾフの製品・市場マトリックス／アンゾフの成長ベクトル／製品ポートフォリオ・マトリックス	事業機会の特質をまとめる。	61
第5回	事業領域の選択(2)：企業ドメインの作成／事業領域設定の枠組み／集約型多角化と連鎖型多角化／事業多角化と経営資源の活用戦略／企業アイデンティティと企業イメージ／企業戦略とマーケティングの関係	事業領域の特質をまとめる。	63
第6回	市場細分化戦略と製品差別化戦略(1)：マス・マーケティングからターゲット・マーケティング、ワン・トゥ・ワン・マーケティングへの変遷／STP (Segmentation：セグメンテーション、Targeting：ターゲティング、Positioning：ポジショニング) マーケティング	市場細分化戦略と製品差別化戦略の特質をまとめる。	65

第7回	市場細分化戦略と製品差別化戦略(2)：市場細分化とターゲット市場の設定／市場細分化基準と事例／製品差別化の事例	市場細分化戦略と製品差別化戦略の特質をまとめる。	67
第8回	ソーシャル・マーケティングの研究の2つの流れ	ソーシャル・マーケティングの特質をまとめる。	69
第9回	ソーシャル・マーケティング(1)：社会志向のマーケティング	社会志向のマーケティングの特質をまとめる。	71
第10回	ソーシャル・マーケティング(2)：非営利組織のマーケティング	非営利組織のマーケティングの特質をまとめる。	73
第11回	ソサイエタル・マーケティング：グリーン・マーケティング/エコロジカル・マーケティング	ソサイエタル・マーケティングの特質をまとめる。	75
第12回	CSVマーケティング(1)：CSRとCSVの考え方の違い	CSVマーケティングの特質をまとめる。	77
第13回	CSVマーケティング(2)：CSVマーケティングの事例	CSVマーケティングの事例をまとめる。	79
第14回	リレーションシップ・マーケティング：ステイクホルダーとの相互作用／コミュニ・マーケティング／流通チャンネルにみられるリレーションシップ・マーケティング	リレーションシップ・マーケティングの特質をまとめる。	81
第15回	授業時試験とその解説	試験問題の対策と復習をする。	83

成績評価の方法・基準と課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・具体的な授業の到達目標にあげた項目を身につけたかどうか、授業時試験や授業時レポートを通じて確認する。この講義では、授業時試験の成績（70%）、授業時レポート（2回）（30%）、受講態度を加味して総合的に成績評価をする。
 ・授業内課題は、授業中に内容を紹介し、説明や講評を行う。

・基本的には、講義形式を中心とするが、授業のテーマによっては、「グループ・ディスカッション」などのグループ学習を行う場合もある。
 ・プリント教材を多く用いるため、各自、ファイルを作成する。
 ・授業中の私語や携帯電話の使用は、固く禁止している。

テキスト・教科書

・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦著『マーケティング戦略〔第4版〕』、有斐閣アルマ、2012年。

参考文献

・石井淳蔵・廣田章光著『1からのマーケティング（第3版）』、碩学舎、2009年。
 ・フィリップ・コトラー編著『社会的責任のマーケティング―「事業の成功」と「CSR」を両立する』、東洋経済新報社、2007年。
 ・和田充夫・日本マーケティング協会編『マーケティング用語辞典』、日本経済新聞社、2005年。

科目名	広告論		
担当教員名	宮澤 薫		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング	SI-COM2003	学年	2年 単位 11
講義名	広告論		
先修科目	マーケティング入門		
この授業を通じて身につけるCUC 6つの能力要素> (主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能	◎	普遍的な知識・技能	○ 相互理解・コミュニケーション力 23
チャレンジ精神・実践力	○	主体性・責任感	社会規範意識・誠実さ 25
CUC6つの能力要素詳細	http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html		

科目概要			
<p>私たちは日々、様々な場所でたくさんの広告に触れながら生活をしている。普段は格別な注意を払うことなく「広告」を目にしているかもしれないが、一つの広告の裏側には広告目標や予算の設定、媒体計画や表現計画、そして広告効果の測定など多様な広告活動が行われているのである。本講義では、広告に関する基礎的な知識を学ぶと同時に、マーケティング戦略における広告の位置づけや広告ビジネスの仕組み、また広告戦略の実際について事例を取り入れながら説明していく。</p>			

科目の到達目標			
<p>広告に関する基礎的な知識を習得すると同時に、実際の広告について、その背景にある戦略を分析できる応用力を身につける。</p>			

授業の特徴			
<p>アクティブ・ラーニングの要素</p>			

グループワーク	プレゼンテーション	実習、実技、フィールドワーク	45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		ディスカッション・ディベート	47
その他			

授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	
第1回	オリエンテーション	【予習】 シラバスで講義の内容と授業の進め方について把握しておく。	55
第2回	広告とは何か：定義と役割	【復習】 講義で学んだ理論や概念について説明できるようにする。また、よく理解できなかった用語に関しては参考文献で調べておく。	57
第3回	広告の機能と種類	【予習】 前回の講義内容を整理しておく。 【復習】 講義で学んだ理論や概念について説明できるようにする。	59
第4回	マーケティング計画と広告	【予習】 前回の講義内容を整理しておく。 【復習】 講義で学んだ理論や概念について説明できるようにする。	61
第5回	広告と消費者行動	【予習】 日常生活で広告との接点について考え、まとめておく。 【復習】 講義で学んだ理論や概念について説明できるようにする。	63
第6回	広告取引と広告組織①広告会社の役割と機能 授業時レポート①	【予習】 授業時レポートの準備として2回～5回の授業内容をよく復習しておく。 【復習】 講義で学んだ理論や概念について説明できるようにする。	65

第7回	広告取引と広告組織②広告取引の構造	【予習】前回の講義内容を整理しておく。 【復習】講義で学んだ理論や概念について説明できるようにする。	67
第8回	広告媒体の種類と特徴①マスコミ4媒体	【予習】テレビ、新聞、雑誌、ラジオの広告に触れ、それぞれの特徴についてまとめておく。 【復習】講義で学んだ理論や概念について説明できるようにする。	69
第9回	広告媒体の種類と特徴②OOHとインターネット	【予習】屋外広告、インターネット広告に目を向け、それぞれの特徴についてまとめておく。 【復習】講義で学んだ理論や概念について説明できるようにする。	71
第10回	広告計画①広告計画の流れと広告戦略 授業時レポート②	【予習】授業時レポートの準備として6回～9回の授業内容をよく復習しておく。 【復習】講義で学んだ理論や概念について説明できるようにする。	73
第11回	広告計画②広告表現と媒体計画	【予習】前回の講義内容を整理しておく。 【復習】講義で学んだ理論や概念について説明できるようにする。	75
第12回	広告効果	【予習】前回の講義内容を整理しておく。 【復習】講義で学んだ理論や概念について説明できるようにする。	77
第13回	ブランド構築と広告	【予習】好きなブランドの広告を取り上げ、広告の目的について自分なりの考えをまとめておく。 【復習】講義で学んだ理論や概念について説明できるようにする。	79
第14回	まとめ	【予習】講義全体を振り返り、不足している知識等を学習する。 【復習】講義の中で、理解が不十分だった用語や理論について、参考文献などで調べ、理解を深めておく。	81
第15回	授業時試験・講評	【予習】授業時試験に備え、これまでの学習内容を整理し、理解を深める。 【復習】講評を聞き、理解が不十分だった部分を明確にし、整理しておく。	83
成績評価の方法・基準と課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
授業への貢献度（20%）、授業時レポート（20%）、授業時試験（60%） 授業時レポートについては、実施後にいくつかのサンプルを通じて、評価のポイント、減点ポイント等、評価基準を明確に示し、その後のレポート作成や、授業時試験に生かしていけるよう指導を行う。			
・マーケティングに関する基礎的知識を有することが望ましい。 ・上記の授業計画、成績評価方法は、履修者の規模によって変更の可能性がある。			
テキスト・教科書 特に指定しない。			
参考文献 岸志津江・田中洋・嶋村和恵（2000）『現代広告論』有斐閣 嶋村和恵 監修（2008）『新しい広告』電通 石崎徹 編著（2012）『わかりやすい広告論』八千代出版			

科目名	マーケティング・コミュニケーション論/マーケティング戦略論		
担当教員名	松本 大吾		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング	SI-COM2005	学年	マーケティングに より関心あり 単位 11
講義名	マーケティング・コミュニケーション論/マーケティング戦略論		
先修科目	-		
この授業を通じて身につけるCUC 6つの能力要素> (主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能	◎	普遍的な知識・技能	○ 相互理解・コミュニケーション力 23
チャレンジ精神・実践力		主体性・責任感	社会規範意識・誠実さ 25
CUC6つの能力要素詳細	http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html		

科目概要			
<p>テレビCM、屋外の看板、電車の中吊り、企業ウェブサイト、モバイルクーポン、ダイレクトメール、Facebook、店員との会話、雑誌の付録、イベント開催、記者発表・・・企業は消費者とコミュニケーションするために、多様な手段を活用している。自社の製品やサービスのことを、いかに知らせ、いかに好きになってもらうか。こうした課題に取り組むのがマーケティング・コミュニケーション（MC）である。</p> <p>本講義では上記のようなマーケティング・コミュニケーションに関する知識を得ることを目的とする。特に、ブランド構築とマーケティング・コミュニケーション、統合型マーケティング・コミュニケーション（IMC）の考え方、インタラクティブ・コミュニケーションの重要性、販売促進戦略と具体的手法などを扱う。</p>			

科目の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング・コミュニケーションに関する知識を得る。 ・企業のビジネス活動に対するより高度な分析的視点を獲得する。 			

授業の特徴			
<p>アクティブ・ラーニングの要素</p>			

グループワーク	プレゼンテーション	実習、実技、フィールドワーク	45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		ディスカッション・ディベート	47
その他			

授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	
第1回	ガイダンス	予習：シラバスを読み、特に何を身に付けたいのかを考える。 復習：今後のスケジュールを確認する。	53
第2回	マーケティング戦略の構造	予習：マーケティングの定義、STPと4Pについて調べる。 復習：配布資料に基づき、重要な用語や考え方を確認する。	55
第3回	コミュニケーション環境の変化とMCの全体像①現代の情報環境	予習：日常生活におけるインターネットの役割と他媒体との関係について考える。 復習：配布資料に基づき、重要な用語や考え方を確認する。	57
第4回	コミュニケーション環境の変化とMCの全体像②MCの構造	予習：コミュニケーション・ミックスとIMCについて調べる。 復習：配布資料に基づき、重要な用語や考え方を確認する。	59
第5回	消費者視点のMC	予習：企業発信の情報の種類とその影響を自分の生活に基づき考える。 復習：配布資料に基づき、重要な用語や考え方を確認する。	61
第6回	ブランド・コミュニケーション①関係性構築のMC	予習：自分のお気に入りのブランドを思い浮かべ、好きになったプロセスを考える。 復習：配布資料に基づき、重要な用語や考え方を確認する。	63
			65

第7回	ブランド・コミュニケーション②企業と消費者の相互作用	予習：自分のお気に入りのブランドとの接点を思い浮かべ、改善してほしい点を考える。 復習：配布資料に基づき、重要な用語や考え方を確認する。	67
第8回	時間軸を考慮したMC	予習：継続的なコミュニケーションを行っているブランド事例を調べる。 復習：配布資料に基づき、重要な用語や考え方を確認する。	69
第9回	販売促進戦略①販売促進の種類	予習：身近な小売店舗における消費者向けプロモーションの種類を確認する。 復習：配布資料に基づき、重要な用語や考え方を確認する。	71
第10回	販売促進戦略②長期的効果を生む販売促進とは	習：一度の購入がきっかけで、その後も購買するようになった経験を思い浮かべ、それがどのような要因に基づくのかを検討する。 復習：配布資料に基づき、重要な用語や考え方を確認する。	73
第11回	商品パブリシティ	予習：新聞や雑誌で、どのような商品、サービス、店舗が記事として取り上げられているかを調べる。 復習：配布資料に基づき、重要な用語や考え方を確認する。	75
第12回	インタラクティブ・コミュニケーション	予習：消費者は企業に対してどのようなコミュニケーションを期待しているのかを考える。 復習：配布資料に基づき、重要な用語や考え方を確認する。	77
第13回	授業内ワーク	予習：これまで学んだ内容について、特にMCの考え方の論理を確認しておく。 復習：当日の課題への取り組みと解説に基づき、改めてMCの考え方を確認する。	79
第14回	まとめ	予習：これまでの配布資料を確認し、理解しきれていない単元がないか確認する。 復習：当日の解説に基づき、改めて重要な用語や考え方を確認する。	81
第15回	授業時試験	予習：これまでの配布資料の重要用語とその意味を確認する。 復習：当日の課題への取り組みと解説に基づき、MCの重要用語と考え方を知識として定着させる。	83
成績評価の方法・基準と課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 授業への参加度30%、授業時試験70%			
上記の授業計画、成績評価方法は、履修者の規模によって変更の可能性はある。			
テキスト・教科書 開講時に指示する。			
参考文献 開講時に指示する。			

科目名	企業財務論/企業財務		
担当教員名	清水 喜久		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング	SI-ACC3301	学年	11
講義名	企業財務論/企業財務		
先修科目	アカウンティング入門		
この授業を通じて身につける<CUC 6つの能力要素> (主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能	◎	普遍的な知識・技能	○
相互理解・コミュニケーション力		23	
チャレンジ精神・実践力		主体性・責任感	
社会規範意識・誠実さ		25	
CUC6つの能力要素詳細	http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html		

科目概要			
<p>企業における財務活動とは、いったいなにを意味しているのだろうか。実は、この質問に答えるのは難しく、ベテランのビジネスマン諸氏に尋ねてみても、多くの解釈が存在することに気づくであろう。</p> <p>オフィスをのぞいてみると、「財務」という言葉をいろいろな意味で使っているケースがみられる。例えば、ある企業の財務部門では、日々の活動で生じるお金の流れをまとめている。また、予算の管理もやっているかもしれない。さらに、別の企業の財務部門は、なにか銀行の担当者と相談していたりもする・・・。そこでまず、この講義で勉強する内容について、明らかにしておきたい。</p> <p>本講義では、企業が経営活動を続けるのに必要なお金の調達方法、そして、調達したお金をどのように使うのか。それらをうまくまとめて、企業の価値を高めるとはどのようなことなのか、について勉強する予定である。</p> <p>皆さんが、会社の経営に携わるようになったら。これから4年間、大学で学ぶ広範な内容に熟知しておかねばならないことはいままでのまではないが、財務に関する知識もまた、少なからぬ役割を果たしてくれることを明記しておきたい。最初は難しいと感じるかもしれないが、まずは“全体像をつかむこと”。これが肝要である。</p>			
科目の到達目標			
企業財務の初歩を理解し、実務において実践出来るようになるレベルへの到達を目標とする。			

授業の特徴			
<p>アクティブ・ラーニングの要素</p>			
グループワーク	○	プレゼンテーション	45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		ディスカッション・ディベート	47
その他			

授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	
第1回	はじめに（講義内容、成績評価、その他注意事項等を説明）	イントロダクションを踏まえ、次回の授業で取り上げる内容に関する指定された図書や資料等を、読んでくる。（読んで、概要をワークシートにまとめる。）	53
第2回	「会計」と「財務」の違いはなんだろうか① -会計理論だけではダメなのだろうか？-	第2回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	55
第3回	「会計」と「財務」の違いはなんだろうか② -財務活動とキャッシュフローについて考えよう-	第3回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	57
第4回	企業活動における財務活動を考えてみよう -経営活動における財務の役割-	第4回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	59
第5回	財務活動と金融マーケット -財務活動を学ぶ上で、最低限知っておきたい金融マーケット-	第5回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	61
第6回	会社法、金融商品取引法と企業経営について① -企業活動のルールを学んでおこう-	第6回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	63
第6回			65

第7回	会社法、金融商品取引法と企業経営について② -企業財務における法制度の影響-	中間試験、第7回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	67
第8回	会社にとって最適なお金の調達方法とは① -お金を借り入れよう-	第8回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	69
第9回	会社にとって最適なお金の調達方法とは② -ビジネスに出資してもらおう-	第9回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	71
第10回	会社における事業投資とは① -集めたお金の使い道について-	第10回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	73
第11回	会社における事業投資とは② -儲かりそうなビジネスにお金を投資するのは簡単???-	第11回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	75
第12回	資金を運用するとはどういうことか -ファンドマネジャーは、どのように資金運用しているのか-	第12回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	77
第13回	企業価値創造における財務の役割について① -経営活動はいったいなにを目指すのか-	企業価値のまとめ、第13回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	79
第14回	企業価値創造における財務の役割について② -企業価値とはいったいなんだらう???-	企業価値のまとめ、第14回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	81
第15回	総 論	本講義で学んだこと、ディスカッションを通じて得られた知見等、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	83

成績評価の方法・基準と課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内におけるレポート70%、授業参加度（小テスト、発言等）30%を基準とする。尚、レポート結果は次回の授業において講評を伝える。

皆さんが、大学生活の4年間で履修することの多くは、社会人になるための貴重な礎となるだろう。まずは、近い将来所属することになる実社会へのトレーニングとなるよう、出来るだけ多くの事象に対して興味を抱いてもらいたい。優れたテキストを繰り返し読むことで、基本的な財務スキルに通暁することはもちろん大切だが、情報をアップ・トゥー・デイトなものにすべく、日頃から新聞等にも眼を通しておきたいものである。

テキスト・教科書

『コーポレートファイナンス入門（日経文庫）』砂川伸幸 日本経済新聞社 2017年

参考文献

『コーポレートファイナンス【上・下】』リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ他、日経BP社 2014年

『コーポレートファイナンスの原理』Ross, Stephen A. Westerfield, Randolph W. 他、きんざい 2012年

『コーポレートファイナンス実践講座』堀内勉、中央経済社 2014年

科目名	企業価値評価		
担当教員名	清水 喜久		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング	SI-ACC3302	学年	11
講義名	企業価値評価		
先修科目	-		
この授業を通じて身につける<CUC 6つの能力要素> (主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能	◎	普遍的な知識・技能	○
相互理解・コミュニケーション力			23
チャレンジ精神・実践力		主体性・責任感	25
社会規範意識・誠実さ			
CUC6つの能力要素詳細	http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html		
科目概要			
<p>企業価値を定量的に測定する試みは、企業買収や合併に限ったことではなく、マネジメントは常にその最大化に努めなければならない。</p> <p>この分野では、簿価純資産法やDCF法、更にはデューデリジェンスに関する詳細まで、具体的な手法にのみ焦点が当てられやすいが、重要なことは、企業価値を評価する本質的な意義である。企業価値は、あらゆる経営上の諸活動が集積されたものであり、それ単独に考えてはならない。従って、本講義では、企業価値を評価する手法も対象とするが、実際の事業活動との関わり合いについて念頭に置きながら幅広く議論してみたい。</p> <p>尚、授業の性格上、会計学（簿記論、財務諸表論）に関する相応の予備知識を持っていることを前提とする。</p>			
科目の到達目標			
企業価値評価の初歩を理解し、実務において実践出来るようになるレベルへの到達を目標とする。			
授業の特徴			
アクティブ・ラーニングの要素			
グループワーク	○	プレゼンテーション	45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習			47
その他			
授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	53
第1回	はじめに（講義内容、成績評価、その他注意事項等を説明） -企業価値とはなにか-	イントロダクションを踏まえ、次回の授業で取り上げる内容に関係する指定された図書や資料等を、読んでくる。（読んで、概要をワークシートにまとめる。）	55
第2回	企業価値を創造するマネジメントの役割	第2回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	57
第3回	財務諸表について復習しよう① -財務会計論を学ぶ-	第3回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	59
第4回	財務諸表について復習しよう② -経営分析あれこれ-	第4回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	61
第5回	キャッシュフローについて考える -キャッシュフローは何故重要なのか-	第5回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	63
第6回	過去の業績評価をどう考えるか	第6回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	65

第7回	将来の業績予想は、何故難しいのか	中間試験、第7回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	67
第8回	企業価値評価のフレームワーク① -キャッシュフローと企業価値-	第8回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	69
第9回	企業価値評価のフレームワーク② -様々な評価手法と価値について-	第9回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	71
第10回	企業価値算定と分析① -定量的企業価値評価から得られるもの-	第10回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	73
第11回	企業価値算定と分析② -企業価値を高めるためには-	第11回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	75
第12回	M&Aと企業価値について① -経営戦略とM&A-	第12回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	77
第13回	M&Aと企業価値について② -M&Aは企業価値増大に役立つのか-	企業価値のまとめ、第13回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	79
第14回	不正会計が与える企業価値への影響について考える	企業価値のまとめ、第14回の講義で取り上げた指導内容について、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	81
第15回	総 論	本講義で学んだこと、ディスカッションを通じて得られた知見等、学生自身が感じた重要事項やキーワードなど抽出し、その内容等を整理する。	83

成績評価の方法・基準と課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内におけるレポート70%、授業参加度（小テスト、発言等）30%を基準とする。尚、レポート結果は次回の授業において講評を伝える。

学部で学んだ内容総てが必要になるとは限らないが、旺盛な知識欲を駆使して幅広い分野を吸収しようとする探究心は、皆さんの社会生活を円滑に進める糧となる。そこで、学生の皆さんには、近い将来所属することになる実社会への準備段階として、あらゆることに対して問題意識や積極性を持ち、授業や討議に参加することを望みたい。

テキスト・教科書

『はじめての企業価値評価（日経文庫）』砂川伸幸他、日本経済新聞社 2015年

参考文献

『企業価値評価』伊藤邦雄、日本経済新聞社 2014年

『コーポレートファイナンス【上・下】』リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ他、日経BP社 2014年

『企業価値評価【上・下】』マッキンゼー&カンパニー他、ダイヤモンド社 2016年

科目名	内部監査論/内部統制入門		
担当教員名	坂井 恵		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング	SI-ACC3201	学年	11
講義名	内部監査論/内部統制入門		
先修科目	企業会計制度		
この授業を通じて身につける<CUC 6つの能力要素> (主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能	◎	普遍的な知識・技能	○
相互理解・コミュニケーション力		社会規範意識・誠実さ	23
チャレンジ精神・実践力		主体性・責任感	25
CUC6つの能力要素詳細	http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html		

科目概要			
<p>企業不祥事が相次ぐなか、企業の内部統制の重要性が広く認識されるようになった。その結果、社会的な影響力の大きな企業の経営者に内部統制を整備する責任があることが、わが国でも法令により明確化され、わが国の企業で内部統制評価を担う内部監査機能を充実させる必要性が高まっている。</p> <p>この講義では、こうした内部監査の実践を支える理論について学習する。具体的には、コーポレート・ガバナンスにおける内部監査の役割、内部統制に関する制度、代表的な内部統制概念、内部統制評価の方法等、大規模な組織の経営者や管理者に求められる知識や理論についての講義を行う。</p>			

科目の到達目標			
内部監査の意義、内部統制概念、内部統制評価の方法について理解する。			

授業の特徴			
-------	--	--	--

アクティブ・ラーニングの要素			
グループワーク		プレゼンテーション	45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習		ディスカッション・ディベート	47
その他			

授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	
第1回	イントロダクション	企業会計制度の授業内容を復習すること。 次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。	53
第2回	企業会計制度の意義と限界	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	55
第3回	コーポレート・ガバナンスとは	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	57
第4回	コーポレート・ガバナンスと内部監査	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	59
第5回	内部監査とは	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	61
第6回	アシュアランスとコンサルティング	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	63
			65

第7回	内部監査の基準と要件	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	67
第8回	内部統制概念の生成	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	69
第9回	現代の内部統制概念	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	71
第10回	内部統制評価の基礎概念	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	73
第11回	内部統制評価の方法	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	75
第12回	全社レベル統制とプロセスレベル内部統制	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	77
第13回	内部統制概念の発展	次回講義の事前配布レジュメを読み、疑問点をまとめておくこと。 授業の最後に示した事項について、ノートにまとめておくこと。	79
第14回	理解度の確認（授業時試験）	授業時試験の準備を見直し。	81
第15回	まとめ・解説	総復習と疑問点の洗い出し。	83
成績評価の方法・基準と課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
授業時試験の成績（100%）で評価する。 なお、授業時試験は通常の授業時間内に実施するため、定期試験期間中の試験は行わない。			
この講義の履修者は、企業会計制度（旧・財務会計入門2）の単位を取得していることが望ましい。 サがつくeラーニングに掲載するレジュメを、必ず授業に持参すること。 授業計画は、受講者の理解度に合わせて変更する可能性がある。			
テキスト・教科書			
毎回配布するレジュメを用いて準備を進める。			
参考文献			
必要に応じて提示する。			

科目名	情報システム		
担当教員名	仲野 友樹		
学部	サービス創造学部	開講学期	2019年度春学期
ナンバリング	SI-INF2001	学年	1 1
講義名	情報システム		
先修科目	-		
この授業を通じて身につける<CUC 6つの能力要素> (主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能	◎	普遍的な知識・技能	○ 相互理解・コミュニケーション力 23
チャレンジ精神・実践力		主体性・責任感	社会規範意識・誠実さ 25
CUC6つの能力要素詳細	http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html		

科目概要			
<p>現在、企業における経営活動には、情報システム（経営情報システム）が大きく関わっている。企業の業種、業態などにより、使われ方はさまざまであるが、経営のあらゆる場面で情報システムは利用されている。そのため、利用する機会が多い情報システムについて理解を深めることは重要である。また、現代では学生、社会人としても、情報システムに関係するコンピュータやネットワークの知識を持つことは必須の条件といえることができる。</p> <p>本講義では、情報システムを構成するハードウェア、ソフトウェア、ネットワークなどの仕組みと、企業における情報システムの利用のされ方について学ぶ。</p>			

科目の到達目標			
本講義では、情報システムの仕組みとともに、情報システムの利用のされ方について理解し、情報システムの利用者として求められる知識を身に付けることが目標である。			

授業の特徴			

アクティブ・ラーニングの要素			
グループワーク		プレゼンテーション	実習、実技、フィールドワーク 45
協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習			ディスカッション・ディベート 47
その他			

授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	
第1回	情報システムの概要	事前 シラバスを読み、講義の概要を理解する。 事後 講義に関する内容をインターネットで検索し、情報収集をする。	53 55
第2回	経営情報システムの基盤と発展	事前 教材を予習して、質問を5つ以上考える。 事後 講義で取り上げた内容についてまとめを記述できるようにする。	57
第3回	ハードウェア	事前 教材を予習して、質問を5つ以上考える。 事後 講義で取り上げた内容についてまとめを記述できるようにする。	59
第4回	ソフトウェア	事前 教材を予習して、質問を5つ以上考える。 事後 講義で取り上げた内容についてまとめを記述できるようにする。	61
第5回	データベース	事前 教材を予習して、質問を5つ以上考える。 事後 講義で取り上げた内容についてまとめを記述できるようにする。	63
第6回	情報通信ネットワーク	事前 教材を予習して、質問を5つ以上考える。 事後 講義で取り上げた内容についてまとめを記述できるようにする。	65

第7回	モバイルコンピューティング	事前 教材を予習して、質問を5つ以上考える。 事後 講義で取り上げた内容についてまとめを記述できるようにする。	67
第8回	ソーシャルメディア	事前 教材を予習して、質問を5つ以上考える。 事後 講義で取り上げた内容についてまとめを記述できるようにする。	69
第9回	情報セキュリティ	事前 教材を予習して、質問を5つ以上考える。 事後 講義で取り上げた内容についてまとめを記述できるようにする。	71
第10回	業務アプリケーション	事前 教材を予習して、質問を5つ以上考える。 事後 講義で取り上げた内容についてまとめを記述できるようにする。	73
第11回	eビジネス/システム開発	事前 教材を予習して、質問を5つ以上考える。 事後 講義で取り上げた内容についてまとめを記述できるようにする。	75
第12回	ビッグデータ	事前 教材を予習して、質問を5つ以上考える。 事後 講義で取り上げた内容についてまとめを記述できるようにする。	77
第13回	ビジネスシミュレーション/IT資格と試験	事前 教材を予習して、質問を5つ以上考える。 事後 講義で取り上げた内容についてまとめを記述できるようにする。	79
第14回	まとめ	事前 教材を予習して、質問を5つ以上考える。 事後 講義で取り上げた内容についてまとめを記述できるようにする。	81
第15回	授業時試験・講評	事前 これまでの講義内容を十分に復習をする。 事後 これまでに講義で取り上げた内容についてまとめを記述できるようにする。	83
成績評価の方法・基準と課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 授業への貢献度20%、小テスト20%(翌週に解説を実施)、授業時試験60%			
初回講義時に告知する。			
テキスト・教科書 適宜紹介する。			
参考文献 適宜紹介する。			